

文化財展示施設の設置に関する市民説明会 ご意見・質疑応答

第1回 日 時 令和6年12月17日（火）午後3時から午後4時15分まで

場 所 あやめ会館 3階多目的ホール

参加者 27人

ご意見・ご質問等	市の回答
体験学習について。私は「火起こし隊」に入っている。火起こし体験は昔、江川邸の横の郷土史料館で行っていたが、郷土史料館が閉館してからは城池親水公園の広場で行っている。展示施設ができた暁には、この展示施設を子どもたちに見学してもらうのだろうと考えていたが、今ご紹介いただいた中で火起こし体験ができるスペースが何か見当たらない。これについてどのように考えているか。 近隣から非常に多くの子どもたちが来てくれる火起こし体験なので、ぜひ活用してもらえればよい。	説明が漏れていた。鳥瞰図のイラストには入っていないが、建物の東側に個別で屋根を設置し、火起こし体験ができるスペースを準備している。 広さは幅3m、奥12mほど。城池親水公園で行っている火起こし体験を見学させていただいたが、スペースとしてはそんなに大きく必要はなかったと記憶している。 時代劇場も有効活用していく中で、それ以上の大人数の場合は時代劇場の施設を利活用していくように考えている。
サポーター制度について。会員募集をする中で、歴史やこの展示施設、葦山反射炉、葦山城といった分野だけでなく、自然観察の分野の人も入れてほしいと思う。 私は箱根町が行っている「おもてなしの達人」の選考委員を務めているが、その時は、色々な山の植物などの説明ができるという秦野市の方が「おもてなしの達人」に選ばれた。そのようなこともあり、自然観察や野鳥や桜の木など、そういうことも説明ができるような方も、募集の中に入れていただきたい。 そうすると親子連れが来ても、子どもたちが自然観察もできたり、史跡を見ながら観察ができたりすると思う。	自然系のボランティアの方の募集についての視点は私どもにも欠けていた。各史跡を巡るにあたっては自然環境や植生などについて興味がある方もいらっしやると思う。自然の知識がある方にもぜひ入っていただきたいと考えている。 まさにこのようなご意見を今日以降もいただきたい。令和8年4月に館としてのスタートを切りたいが、その段階で色々なことができるかどうかはわからない。より良い形で切りたいと思っているが、これは市民と共に育てていく施設である。令和8年4月にスタートを切って以降も引き続きいろいろ検討していきたい。
観光基本政策について。今までの10ヶ年計画の中で、老朽化した郷土史料館を新しくという喫緊の	これまでも、観光や都市計画など様々な関連する部署が入った庁内プロ

課題があり、ここまでの段階になったと承知している。昨今の文化財保護法の改正で観光行政と関わりを持つよう指針が新たに定められた。観光客を呼び寄せて展示や史跡を見学してもらうという部分で、観光行政と一体となってこのプロジェクトを進めてほしい。	プロジェクトチームで進めてきた。ここでこのような説明資料ができたため、今後は観光協会や商工会、場合によっては民間の施設にも入っていける。今後はそういったことも調整を進めたい。
義時・江間まつりに参加してきたが、大河ドラマが終わっても今でも地域の皆さんは北条義時のゆかりの地として盛り上がっている。その前から江間公園は整備されていたが、いつそのこと公園の名称を「江間義時公園」に変更してはどうか。そうするともっと身近になって、地域の皆さんも公園を利用しやすくなったり、あるいは観光や学習で来たお客さんが周遊したりできる。このように、あまり今までのものにこだわらずに、名称の変更を検討してほしいと思う。	今おっしゃった視点としては、現場のさらなる充実ということで、できる範囲で考えていく。
伊豆半島のジオスポットをたくさん周遊している中で、最近では地質学の先生と一緒に狩野川の河岸段丘のことを調べて回った。その時に、蛭ヶ島の鎌倉時代の地層はどの辺ですか、と聞いてみた。すると、1.5mぐらい地下だと言っていた。蛭ヶ島公園には頼朝・政子の像があるため、1.5mぐらい掘って、当時の地層はこの辺だと見えるようなことをしたらどうか。 三島に頼朝と政子の腰掛石がある。それに倣って腰掛石を置き、記念撮影ができるようにしてもよいのではないか。このような形で色々な工夫ができると思う。そのようなこともやってほしい。 蛭ヶ島公園には平成15年に頼朝・政子の像ができた。富士山をバックにして2人の写真を撮るときに、北条氏邸跡（円成寺跡）にあるパネルと同じように、パネルで噴火しているような煙が出ている富士山をあしらい、それを通して写真を撮ると鎌倉時代の風景が再現できるというものかどうか。 観光のお客さんやインバウンドのお客さんをもっと増えてくるような状況で、文化財課だけでなく観光の部署と一緒に、素材を生かす取り組みをお願いしたい。	企画展示室を用いて三島市との連携など、そういった形でいろいろできると思うので、引き続き検討させていただきたい。

説明の中で、市民や個人の知見を生かすという活用方法の話が出ていた。建物ができた後の運営面やソフト面についてどのように考えているか。 市役所の方は一つの組織とどういう繋がりを持っていくのか。 職員はどんな形になっていくのか。 館長、所長はどのような人が務めるのか。	市役所の組織との繋がりということであれば、教育委員会の文化財課がこの館の管理運営を担うことになる。 館長職は現在県内を中心として他の類似施設、公立の博物館、郷土資料館などの館長を含め、運営体制は全部調べた。それらを参考に今本市の施設にこういった形で管理者を置くのが望ましいのかは既に検討に着手はしているが、現段階で何らかの答えができるわけではない。
ボランティアの方々の取り組みということで、イベントの補助などいろんなアイディアの話が出ていた。そこで、ボランティアの考え方をどのように市民の力として生かしていくのか。 ボランティアの人たちは色々な思いを運営面で生かして行ってほしいと思っている。運営面については、今の段階でこれから作っているところもあると思うので、今の段階ではどんなふうに考えているのか聞きたい。 ぜひ市民の力を活用して行ってほしいと思う。	おっしゃる通り、ボランティアとして来ていただける方は色々な方がいらっしゃると思うので、ご意見をきちんと伺った上でどういう形で館の運営に生かしていけるかを、市役所としてもすり合わせをしていきたい。ただ、現段階でどんな方が来られるかはまだわからないので、事前の説明会や学習会の中で話を聞き取りながら進めていきたいと考えている。
社会教育委員の観点からだが、今、ボランティアは自分の時間を使って活動する中で奉仕をしているわけなので、それなりの予算が必要。言い方を悪くすればボランティアを無償でやるような感覚があるのかなと思う。「ボランティア＝無料でやる」という考え方を改めていきたい。我々社会教育委員も今回提言書を上げるにあたり、その部分を少し強調している。 色々な館でボランティアを使っているところがあると思うが、世間的にはそれなりの予算が必要だという流れがあると思う。実費もある。そのようなことも検討の中に入れてもらえるとありがたい。	ご意見として承る。
展示内容について。生きている私達が一番近くにある歴史は昭和時代だと思う。子供たちにとって昭和の品物は遠い過去のもの。見ても使い方がわからないとか、これ何だろうとかがたくさんあると思う。江戸時代より前のものは展示の計画にしっかり	時代の通史に関してはこの案で引き続き進めさせていただきたいと思っているが、昭和時代という視点は非常に重要だと思っている。例えば大仁で築いてきた産業などの視点がある。これ

入っているが、昭和の古いものも集めてほしい。企画展として展示する歴史の中で一番体感できると思う。 また、展示するだけでなく、今後の未来のために集める仕事も進めていってほしい。 歴史を学べば未来に繋がっていくのは間違いない。ただ、古いものは私達が見ても遠いものは本当に遠く、これ何だろうっていうだけで終わるのではなく、自分と歴史が繋がっていることを知る入り口を作っていただければと思う。 専門家の人たちが並べ方を研究しているので間違いはないと思うが、私から言わせてもらおうと、昭和時代を入り口として奥へ奥へ遠くへ入っていく方がわかりやすいような気もするが、よろしく願いしたい。 偉人の中にも、日本初のレジスターを発明した間宮精一さんや医学博士の沼田勇先生など、私達がまだ名前を知っている人たちも入れてもらえば、資料館が近いものになってくると思う。	らは企画展示室で展開できるし、体験コーナーもスタートはこれでいこうということであって、子どもたちが触れて学ぶ要素は重要視している視点である。 先ほどもご説明した通り、令和8年4月に一定の結論をしてスタートを切るけれども、その後必要に応じていろいろ考えて進めていきたいと思っている。
物販は行う予定か。私は色々な城跡や資料館に訪れているが、現地のゆかりの人物のグッズや食べ物などがお土産品として売っていたりする。この文化財展示施設でもやったらどうか。そうすれば人が増え、多分変わってくと思う。	物販は行う予定。グッズや御城印などといったものや、商工会と調整しながらこの地ならではの菓子など、そういったものの開発も進めたいとは考えている。
せっかくこのような建物ができるのであれば有効に使ってもっと外に情報を出して、たくさんの人に来てもらった方がいい。 2年前の大河ドラマ『鎌倉殿の13人』の時に実感したのではないかな。大河ドラマ館の建物は小さかった。来訪した友人に「小さい！鎌倉より小さい」と言われた。もう少し頑張ってやってもらえれば来館者数が20万人以上いったと思う。20万人というと、大河ドラマ『どうする家康』の浅間神社の大河ドラマ館がそのぐらいだったため、少なかったと思う。浜松会場とは人口の差はあったと思うが50何万人と凄かった。浜松市も大河ドラマの放映終了後、徳川家の色々な文化財を一ヶ所に集めようと試みたがそれ以上入らず、問題になっているそうだし	情報発信については、あらゆる手段と媒体を使って発信に努めてまいりたいと思っているが、行政こそそのようなものが苦手だということの指摘を受けることがあるので、それこそ先ほどもご説明した通り、民間の力も借りて相乗効果で進めていきたいと思う。

が。浜松市とは財力の違いがあるのはわかっているが、一気に良い施設を作っていた。 伊豆の国市の場合は大河ドラマの決定がいきなり落下傘で、しかも小田原北条ではなく鎌倉北条で戸惑ったという経緯だったのも承知しているが。	
大河ドラマ館があった時も、飲食店が近くに無かったと思う。2年前、食事処の有無を遠方の知り合いに問われた。飲食店も作ってもらえたらと思う。	飲食店の問題はなかなか新たにというのは難しいが、幸いにも時代劇場が隣接して一体的な活用と思っているため、ひだまり広場に毎日というわけではないが、例えば祝日などにキッチンカーで食べていただけるようなことも考えていきたいと思っている。
展示の中で、山木遺跡の展示があるが、山木の場合がわかりにくい。現地は歩道にいろんなベンチも置いてあり、富士山も綺麗に見える通りになっている。江川邸から行くお客さんも多いと思うが、そこに昔、皆が一生懸命掘った時の、発掘調査の色々な写真があるといいと思う。 そのようなパネルを現地に展示し、ここでこのような発掘調査を行って、ここからこういう文化財が出たんだ、というのがわかるスペースを設けて、その通りをもっと充実させてもらおうと非常に連携が良くなると思う。	現地を見て何もわからないということでは、この施設自体の意味がなくなってしまう。まだ予算の審議の方がこれからになるのでなかなか難しいが、例えば看板の設置などの検討を我々としては進めている。 山木遺跡に限らず多田大塚古墳など、市内に色々ある。最優先すべきは山木遺跡だと思っているが、これも繰り返しになるが段階的に進めていきたいと考えている。
最寄り駅である菰山駅からの動線について。電車を降りてから、ある程度歩いていく道のプロムナードをしっかり雰囲気作りをして、電車利用のお客さんが新しい資料館にたどり着けるような客動線を整備していったらどうかと思う。	菰山駅の東口を開けるという話にも繋がると思うが、それも市では検討をいろいろ進めている。西口からこの展示施設に行くにあたっては色々な考え方ある。安全を最優先させた上でどういったことができるか、市としてもしっかり検討を進めているということでご理解いただきたい。 ご説明した通りだが、例えば市民交流室も、いろいろ例示は挙げさせていただいたが、市が考えるとこういったぐらいの案しかないため、こんなこともいいんじゃないのとか、突き抜けたようなことがあればご意見をいただきたい。これまで繰り返し申し上げてき

	たが、文化財に限らないでいいと思っている。広く文化活動や、市民の生活に密着したもので構わないと思っている。企画課の連絡先を今日お配りした次第に記載しているので、本当にご意見をお寄せいただければと思う。
今の中学生は部活が削減されて、早く帰られる日がある。近くだと葦山の地区に限ってしまう場合もあるが、大仁の方も電車で近いので、子どもたちが安心して時間を過ごせる居場所としてもある程度平日は考えてもらえると嬉しいのでよろしくお願いしたい。	ご意見として承る。

第2回 日 時 令和6年12月17日（火）午後7時から午後7時40分まで
 場 所 あやめ会館 3階多目的ホール
 参加者 19人

ご意見・ご質問等	市の回答
なし	なし